

令和 8 年度 第 1 回健やかほうふ 2 1 計画推進委員会 会議録要旨

1 日時	令和 8 年 7 月 2 3 日（木） 午後 2 時から午後 3 時 3 0 分
2 場所	防府市保健センター
3 出席者	【委員】 松村委員、竹田津委員、山内委員、権代委員、杢田委員、山本委員、西丸委員、今川委員、久門委員、松野委員、古谷委員、山野上委員、目代委員、岡田委員、江中委員、北住委員、横田（恵）委員 ※欠席：吉富委員、弘中委員、横田（さ）委員 （事務局） 尾中（保健こども部長）、小野（健康増進課長）、津田（課長補佐）、島（技術補佐） 健康増進課：渡邊係長、川脇、白石、三好、高山 こども相談支援課：齋藤係長、竹田 高齢福祉課：坂本
4 傍聴者	2 名
5 議題	（1）健やかほうふ 2 1 計画（第 3 次）の推進について （2）各団体の取組について（意見交換）

- ・次第「1 開会」「3 閉会」は記載省略
- ・会長、副会長選出・・・会長：松村委員
副会長：横田委員

2 議事

（1）健やかほうふ 2 1 計画（第 3 次）の推進について

<事務局説明>

- ①健やかほうふ 2 1 計画（第 3 次）の内容について （資料 1）
- ②庁内各課の令和 7 年度の取組と今後の取組 （資料 2－1、2－2）
- ③高齢者健康の道について （資料 3）

(2) 各団体の取組について（意見交換）

議長

各団体の取組について意見交換に入りたい。

計画に基づいて、市民の健康づくりのために、各団体が連携して取り組んでいかなければならないと思っている。各団体の取り組みや、今後の取り組み、提案等、ご意見いただけたらと思う。

私は、防府医師会だが、医師会の取組は、ケンシンプラスワン運動において、ケンシンの受診率を増やしたいと考えている。

去年は、各クリニックとか病院の窓口で、大腸がん検診を受けていただきたいということで、検便の容器を置いて、検診受診勧奨に取り組んでいただいた。それぞれの病院・医院の取組があると思うので難しいが、大腸がんの検診受診率の低さ、また、胃がん検診、肺がん検診についても、何か取組ができればと考えている。

A委員

今までは喫煙のことで、薬剤師会は携わっているので、今年も引き続きできたらと思っている。先ほどのデータでも、喫煙率が高いと思ったので、引き続き取り組んでいけたらと思う。

また、飲酒と自殺、自然に健康になる環境づくり、社会のつながりというのが、新しいテーマだと思う。薬剤師会も自殺やゲートキーパーに関わることでできたらと思っている。

B委員

私どもは、企業の健康経営の啓発推進への取り組みに力を入れて実施をしている。

防府医師会と連携した健康相談を年 4 回実施しており、今年度も引き続き取り組んで参りたい。

創業相談業務の中で、産後ケアサポートの事業化を予定している助産師の方を対応した。出産・子育てについての悩みを抱えている方への効果的なアプローチの手段として、SNS の活用について提案・助言をした。このような取り組みも、間接的には健康維持に通ずると感じている。

C委員

当社で取り組んでいるのは、小学校、幼稚園、保育園等で野菜をいっぱい食べましょうという食育活動をする 것과健康経営の推進をしている。

ゲートキーパー養成講座や健康出前講座についても、当社で実施しても面白いと思うので、帰って情報共有できたらと思う。

D委員

J Aでは主に、食育と、地産地消のPR、農産物、地元農産物のPR等をして

いる。

今、こども向けのアグリスクールを、年9回開催しており、収穫体験やその野菜を使った料理を、女性部の補助で実施している。食育ソムリエのお力をお借りして、郷土料理を使ったコッペパンを作る出前授業を防府商高で行っている。少しでも地域に貢献できたらと思っている。

E 委員

市内の14地区で各公民館を中心に、小さい子からお年寄りまでの料理教室を開催している。

私たちの健康は、私たちの手でというスローガンをもとに、地域の方の健康づくりのお手伝いをさせて頂いている。また郷土料理とか、いろいろな場面で、料理教室等も行っているので、何かお声がけいただければお手伝いさせていただきたい。

F 委員

社会福祉協議会においては、「自然に健康になれる環境づくり・社会のつながり」の取組として、各地区で行われている「ふれあいいいききサロン」の活動を支援している。現在、137のサロンが、開設されている。

社会と繋がることで孤独の解消や、運動することで健康にもなる。また社会福祉協議会の事務所が、市役所の福祉棟に令和7年1月から移設し、福祉総合相談窓口との連携を強化している。毎日9時から12時まで、「心配ごと相談」を開設している外、生活困窮者の自立相談支援も行っており、就労や居住の支援、それから家計改善などにも取り組んでいる。このようなことが、自殺対策になればと思っている。

あまり健康というイメージはないかもしれないが、社会福祉協議会としても色々な取組をしている。

G 委員

今回初めて委員をさせていただく。私は、「がん患者と家族の会 にじいろ」というところの代表をしており、がんの経験者である。会の活動の主なものとして3つあり、1つは、がん患者サロンを行っている。月6回のうち4回は山口県立総合医療センター、2回をルルサスで行っている。

2つ目として、がんの正しい知識を伝えるということを行っている。これは年間で、がんのセミナーを2回、それからミニ講座を3回、人材バンクに登録しており、依頼があれば講演もしている。それともう1つ、がん教育も去年から行っており、今年は県教育庁が行うモデル授業のうちの4校を担当し、防府市では9月に大道小学校で行う予定。その他、宇部市と下関市の中学校で行う。

それから大人のがん教育もとても大切と思っており、今年度は、県の医療政策課から、山口市にある事業所で講演をして欲しいということで行うようになった。今回初めてなので、皆さんの意見を伺って、私の活動にも色々と参考にしていきたいと思っている。

H委員

保健所からは2点ほど、活動をご紹介したいと思う。1点目は健康づくりについて。

健康づくりは、地域職域連携推進事業といい、地域で行っている健康づくりと、職域で企業が行っている健康づくりが、うまく連携し合って効率的な健康づくりができないかということで行っている事業である。今年度、重点目標として2点ほどあげている。1点目が、やまぐち健康経営企業認定制度の登録事業者を増やすことである。健康経営企業として登録はあるが、認定基準を達成する企業は、防府市は登録企業に対して認定企業の割合が若干少ないので、増やしていきたい。昨年度アンケートに答えていただいた企業に、認定基準を達成するよう一緒に検討する目的で個別訪問させていただき、健康づくりの支援が出来ないかと今動いているところである。

それから、ケンシン受診率の向上への取組について、山口県では高血圧とコレステロールが高いなどの循環器病の対策を重点に挙げており、健康経営とあわせて、ケンシンを受けていただき、健康づくりに繋がるような生活習慣になっていくように取り組んでいこうとしている。これについては防府市と一緒に企業に行かせてもらい取組もうとしている。

2点目が、自殺予防対策について。昨年度から防府圏域で自殺対策ネットワーク会議の開催を始めた。この中で防府の状況を分析すると、自殺未遂者は、最初に救急医療機関に運ばれ、軽症であればそのままお帰りになったり、入院されて、なかなか精神科病院につながらない現状がある。未遂者がまた自殺をするというリスクがとても高いので、そういった方々の支援に繋がっていくように、再企図防止に去年から取り組んでいる。去年は実態が分かったところなので、今年度はさらに、自殺未遂者が一番多く運ばれる県立総合医療センターに調査に協力していただき、調査結果をもとに今後の支援方法を考えていく取組を考えている。

I委員

本校の取組として、昨年度から睡眠教育に力を入れてやってきた。

自分自身の生活で、どこに課題があり、どうしたらいいのかということ振り返り、次に生かすという取組を去年1年間行った。こどもたちの中でも、やっぱり睡眠って大事だよね、しっかり寝ないと次の日なんか元気出ないよねというのが、実感できたという感想もあった。

その中で、早く寝ないといけないのは分かっているが、ゲームが止められない。ずっとYouTubeが見たいという子が多く、今年度は睡眠教育の中でも、メディアコントロールに力を入れてやってみようということになった。今、こどもたちは最高の夏休みだと思うが、そこでメディア漬けにならないように、1個ルールを決めようというふうに、夏休み前に話をした。自分だけで決めるのではなく、おうちの方の協力が絶対に必要で、急に、1日1時間までなどは難しいと思うので、自分でできるルールを家族みんなで決めるという宿題を出しており、夏休み明けが楽しみだなど思っている。

単発授業にならないように継続して、メディアの授業、睡眠の授業、心身の健康の授業を行っていききたいと思っている。

J 委員

心理師会としては、継続的に県と連携をしながら、自殺対策の会議に出席をしたり、個別事例に対しての対応をしていくなど、自殺予防専門委員があるので、そこで対応している。

私自身は、総合医療センターの所属になる。総合医療センターは、防府市民が多く利用される医療機関になるので、そこで出来ることを模索しなければいけないと思っている。

先ほどH委員からお話があったように、防府圏域の会議にも参加させていただいて、これからできることは何か、三次救急の病院として、地域と連携して、自殺企図をした人をカバーしていく、サポートしていくにはどうしたらいいかということを、病院としても構築していく必要があると考えている。

思春期の自殺企図も、残念ながらあるようなので、そういう場合には、再企図がないように、どのようにして学校などと連携しながら支えていけるか、家族を支えていけるかをしっかり情報を取りながら、連携していききたいと考えている。そのような、救急にきたケースを、心理師も関与できるような仕組みを作っていきたいと思っている。

K 委員

保育園は、県と国からの指導もあるので、食育に関するものは、しっかりとやらざるを得ないというところもあり、わが園においては、歯科健診を1歳から行っている。

これは分野、所轄が違うのかという感じもしているが、よく分からないので提示してみるが、今、学校の教員でノイローゼそれから強迫神経症のような方たちが多数おり、それで学校を休まざるをえない。そういう学校、そういう先生に対して、教育委員会から、休暇のとり方という冊子が印刷してあるぐらいのレベルである。

今、学校の先生方も相当苦しんでるのは、若い保護者を見てる限り、分からないことはない。気持ち的には、我々も似たような世界におり、今の若い保護者がどんな気分で、どのように物を考えてしまうのかということについて、よく似たことかなと思っている。ぜひ、防府の教育委員会も含めて、教職員の心の病気というものに対するアプローチについて、市の管轄で出来るのであれば何かしてあげられればいいのかと感じている。

それから、今、若い保護者と我々も付き合いながらつくづく思ってるが、セミナーや福祉の押し売りの的なものをやると必ず拒否されるので、押し売りの的な動きをしないというのが一番大事。年寄りが集まって、こういうことが必要だから、こういうことを勉強しなさいという形でアプローチすると必ず拒否反応が出る。

色々な啓蒙を、今どの分野もやっぺらっしやるわけだから、それをどのように若い人につなぐかということを考えていくならば、若い人たちは指導してや

るとか、やり方がおかしいとか生活がおかしいなどに非常に大きな反応を示してしまう。

それは、我々虐待の分野を扱ってる世界でも同じで、アプローチは、すごく大事で、難しい時代が来ている。昔はやろうよって言ったら、皆動いてくれていた。だんだんこれが、言っても動いてくれない時代が来ているので、アプローチの仕方も含めて、皆さん方に検討していただければなと感じている

L委員

私たちの協議会は、市内の病院や様々な事業所に勤めているリハビリテーション専門職が集まり、地域で何かできないかというところから始まった協議会になる。

現在は、高齢福祉課と協力しながら、地域の通いの場の立ち上げや総合事業の手伝いをさせていただいている。おかげでゼロベースから通いの場の立ち上げをさせてもらい、今、市内でたくさんの通いの場、公民館などを使って、色々な方々が交流できるような場を作ることができたところは、とてもよかったと思っている。社会福祉協議会がされているサロンなども含めて、地域資源を活用していけるような取組ができれば良いと思っている。

2点目は、まだ新しい分野だが、健康経営で、企業の腰痛予防体操なども新しく始めている。山口県の作業療法士会でも新しく委員会を作り、そういったところにリハビリテーション専門職が関わって欲しいと、厚労省から通達をいただいているので、私たちができる専門職の考えをまた生かしていけたらと思っている。

最後に、私は訪問看護ステーションで働いており、先ほど、自殺予防の話があったが、臨床から自殺企図の方に関わる機会もあるので、そのような施策がどんどん進んでいきながら、目の前の方を救えるような、防府ができていくと良いと思っている。

最後1点、幸せます健康まつりに、昨年度は参加させていただいた。今回健康づくりというところで、桑山の活用があったと思う。天候が心配だが、イベントをそういう場所でやってみるのも、市民が、足を運んで知ってもらうことになると思う。桑山であれば歩いてこれるとか、自転車でこれるとか、そういうこともあるので、公共交通機関で来た人には、SDGsポイントとかあげながら、景品がもらえるとか、そのような取組も含めると、より活用しやすい地域の資源になると感じた。

M委員

私自身は牟礼地域自治会連合会の会長をしており、自治会の会長でもある。健康に関しては、自治会なので社会との繋がりの部分に力を入れたいと思っている。うちの自治会では、色々なことをやっているが、今、住民の繋がりが、非常に緩くて、なかなか繋がりがなく、住民のコミュニケーションが非常に乏しいという課題がある。これが結局何かというと、自治会の存在意義を考えると、防災とか防犯になるかと思う。住民の繋がりが弱いと、防災防犯という意味で、なか

なか機能しないのではないかというところを非常に危惧しており、何とかできないかと思い、昨年度、オダケイスケさんという方を静岡からお呼びして、講演してもらった。その方は、何もしない合宿をすることによって、住民のコミュニケーションを、だんだん取り戻してきたとおっしゃっていて、面白いなと思った。浮野自治会で、やってみようとなり、やってみたが、誰も集まらないという状況で、何とかしたいと思っているが、うまくいかないという現状がある。

今、いろいろな策を考えているところだが、自治会としては、このような取組というのが必要ではないかと思ってる次第である。

N委員

防府歯科医師会では、妊産婦健診や1歳半健診、3歳児健診、学校歯科健診など、健診事業に協力しており、これからも様々な健診事業があればしっかりと協力していきたいと思っている。また、学校や施設、企業、市役所で定期的に講演会を行っている。

講演会や、健診事業を協力することによって、歯科受診率をとにかくあげたいと考えている。

O委員

今年度から、公募委員として参加させていただくことになった。今年度から小学校のPTAの会長もさせていただいており、学校の運営、こどもたちや保護者に関しての会議に参加させていただくことがあり、いろいろな悩みがあるということを実感しているところである。推進委員会に入らせていただいて、情報を得て還元できるようなことがないかというのを見つけながら、活動していけたらと思っている。

自営で、託児サービスを付けた習い事教室を、カルチャーセンターとして開業した。小さいお子さんをお持ちのお母さんお父さんに集まっただき、ヨガをしたり、この間は性教育の講座を開いて、それに参加していただいたりと、ちょっとした習い事の機会を増やす、外出支援をするというところでも、活動していけたらと思っている。その点でも、色々なお母さんたちとお話する機会があるので、悩みから、ここと繋いだらいいのではないかというところが、私の中でもできたらと思っている。

議長

それでは最後に、副会長の横田委員からご意見をいただきたい。

P委員

各分野の組織、団体の代表の方がこの会にお見えで、それぞれの活動でどのように健康に関連した活動をされているか、またその中から、どのような課題があるのかということをお聞かせいただき、防府地域の課題を考えさせていただいたと思った。

私も以前は、保健所に長く勤めていたので、行政の立場からすると、すごく心

強いと感じており、防府市の方もそう思っておられるのではないかなと思う。

私からは、3つほど気づいたことをお伝えしたいと思う。1つ目は、健康づくりの計画について。今回の計画の目標は、最初に部長も言われたように、市民一人一人に健康の意識を持っていただき、行動に繋がることを意識して計画が作られている。主語が市民で、市民がこのようにできるというような目標のあげ方をされていたので、それ自体が市民に伝わりやすいのではないかなと思った。ただ、そこで気をつけないといけないのは、健康は一人一人の努力ももちろん大事だが、個人の責任ではなく、一人一人が健康づくりを進めやすいような環境づくりがとても大事であるため、8番目の環境づくりや、社会との繋がりの方が全体に共通するすごく重要な目標なのではないかなと思う。

例えば、ケンシン受診率のことにしても、ケンシンを受けましようと言ってもなかなか受けられず、今まで、その努力はたくさんしてきた。ケンシン受診した人に、なぜ受けたのですかという調査を、若いお母さんを対象にした調査結果では、家族とか身近なお友達とか、身近な周囲の人からの声かけで受けたという結果が出ている。

そういう面でも、地域とか社会との繋がりというのが、ケンシン受診にも、影響しており、環境づくりや地域づくりの面で、この会議はすごく重要な会議だと思う。

それから、2点目がウォーキングコースのネーミングの意見をということで提案があったが、これも環境づくりの1つの目標である。これについても、高齢者を対象とした全国調査があり、介護状態になっていない人からの経年で、何年間か追跡調査をしたという調査であり、たくさん歩いている人ほど、要介護になりにくかったという結果が出ている。たくさん歩いているというのは、身近に、歩きやすい場所、道とか公園とか、運動しやすい環境が身近にあり、歩数が増えて、そこから要介護になりにくくなった。まちの環境が、そのまちの要介護になる人が多いか少ないかということに影響しており、最近の調査結果でも、幾つか似たような調査結果が出ている。

まさしく今、防府市でウォーキングコースを高齢者のためだけではなく、市民全体に広げる環境をとということでの提案と思うので、ぜひ、みんなで知恵を絞って、市民みんなが活用できるようなウォーキングコースとして生まれ変わると良い。ハードはできているので、あとは市民一人一人に届くようなネーミングができると良いかなと思った。

それから最後は、この会議の皆さんに、何回かこの会議で言わせていただいているが、今回初めてこのメンバーでの集まりということで、この会議は、行政が主体の会議ではあるが、参加をされた方にとってもメリットがあるというか、お互いの情報共有をして、お互いが何か利用し活用し合えるような、横の繋がりができると良い。皆さんは、もちろん地域貢献のために参加していただいていると思うが、誰かのためだけではなく、ご自身の組織、ご自身にも、この会議が、お役に立てると良いかなと思っている。

議長

その他に、何かご意見があればいただきたいと思うが、よろしいか。

初顔合わせになるので、また今後色々と議論が出てくると思う。色々な業種の方から、色々な考え方、お話が聞けたので、皆さんぜひ持ち帰り今後の会議でも積極的な議論ができればと考えている。

以上により議事終了